

地域における気象防災支援の強化

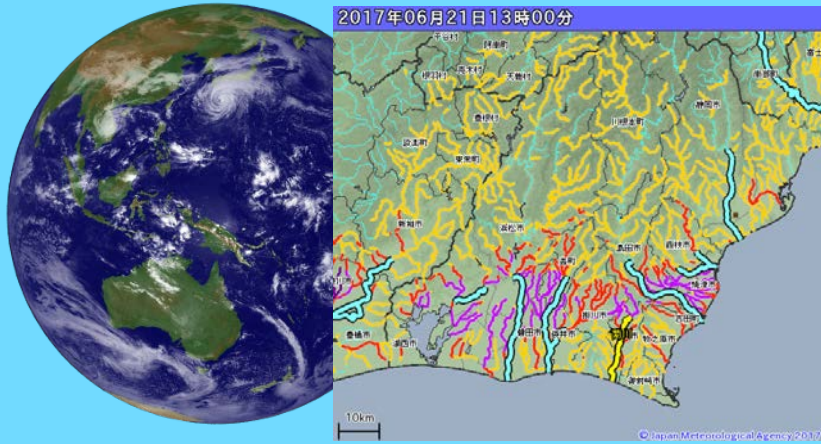
地域でより役立つ気象台へ



静岡地方気象台

地域における気象防災業務のあり方の検討(平成29年度)

防災気象情報は年々、改良・高度化



毎年のように気象災害は発生



防災気象情報は十分に活用されているか？
気象台が地域の気象防災にもっと役立つ道は？

地域における気象防災業務のあり方の検討会



学識経験者、報道機関、自治体、関係省庁からなる委員により平成29年4月から7月にかけて審議が行われ、検討結果が8月に発表されました。

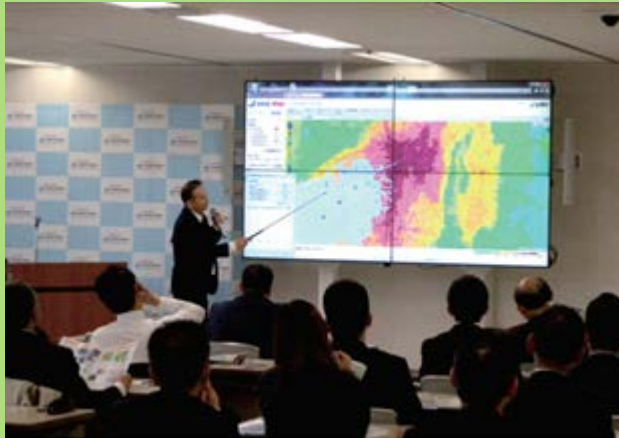
地域における気象防災業務強化の方向性

- 「防災意識社会」を担う一員としての意識を強く持ち、市町村、都道府県、関係省庁の地方出先機関等と一体となって、住民の具体的な防災行動に結びつくよう、地域の気象防災に一層貢献
- 防災の最前線に立つ市町村に対し、既存の防災気象情報や“危険度分布”等の新たな情報を緊急時の防災対応判断に一層「理解・活用」(読み解き)いただけるよう、平時からの取組を一層推進

**大雨等の緊急時に、自治体の緊急の防災対応の判断等に
防災気象情報をより一層活用いただけるように3つの場面での対応を強化。**

平時

防災気象情報の「読み解き」に資する取組の推進等



防災担当者向けの説明会

緊急時

気象解説の充実、自治体への職員の迅速な派遣等



気象状況の解説・助言

災害後

緊急時の対応を共同で「振り返り」、さらなる改善。



災害対応について関係者で振り返り

今後の気象台の具体的な取組(予定)

☆地域防災支援強化のための予算措置、体制強化等が実現するまで待つこと無く、既存の取組を見直し、**できるところから強化。**

気象台と自治体の「顔の見える関係」の構築

市町への首長訪問や防災担当者打合せを計画的に実施し、信頼関係を醸成し、緊急時の連携を確実にする。



(参考)首長訪問実績
平成27年度 6市町
平成28年度 16市町
平成29年度 19市町
(年度内に20市町以上の予定)

緊急時の自治体への気象解説、ホットラインの確実な実施

台風や大雨などで大きな災害が予想される場合は、警報等の適時適切な運用に加えて、ホットライン等により、直接気象台の危機感を伝えて、市町の防災対応を後押し。



首長・台長間、防災担当者・管理官間のホットラインは気象台からだけでなく、市町からの疑問に答える形で双方向で運用。

気象防災対応支援チーム(仮)の創設

災害発生時に、地元気象台だけでなく、周辺気象台も含めた広域応援体制により、自治体への職員の迅速な派遣を組織的・計画的に実施し、自治体の災害対応を支援。

